

大会名称: 第51回 北信越高等学校新人バスケットボール選手権大会

開催場所: 富山市総合体育館

試合区分: No. A3 女子 決勝戦 コミッショナー:

期 日: 2020(R02)年1月26日(日) 主審: 尾形 美樹

開始時間: 12:20 副審: 河辺 真由美

終了時間: 13:50 副審: 梅田 香

開志国際		○ 70		21 -1st- 18 15 -2nd- 16 19 -3rd- 8 15 -4th- 25 -OT1-		● 67		津幡							
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4		松山 玲奈	26	3	7	3	4	4		佐藤 杏音	26	6	4		3
5		各務 早紀	6		3		4	5		岸本 美星	16		7	2	4
6		渡邊 夏澄						6		新木 亜沙菜					
7		溝口 彩夏	5	1	1		3	7		竹田 涼夏	10		4	2	1
8		大向 佳夏						8		永山 怜渚	2		1		3
9		今村 ひなの						9		高山 愛菜	10		3	4	
10		古谷 美羽	7		2	3	4	10		今保 美鈴					
11		中山 千朗理						11		町谷 愛海					
12		野々村 香那						12		山崎 涼菜	3	1			
13		堂脇 さち	18		7	4	1	13		東田 凧沙					
14		島田 愛里	2		1			14		川島 里湖					
15		瀬川 怜奈	6		2	2	2	15		別宗 桃花					
16		文山 木の实						16		吉田 梨菜					
17		大山 碧						17		西川 瑛菜					
18		URHOBARA VIVIAN ODJUVUARA						18		南出 泉水					
合計			70	4	23	12	18	合計			67	7	19	8	11

## 戦 評 (記録者: 酒匂 博臣)

出だし津幡はオフェンスリバウンドから4番の連続3Pや5番のバスケットカウントなどで8-0とリード。開志国際はディフェンスリバウンドが拾えず苦しい展開となる。1Q中盤、開志国際はTO後にディフェンスとディフェンスリバウンドを改善すると流れを掴む。残り3分、4番の3Pで逆転すると13番の1Q5本目のジャンパーで着実に加点する。

2Q、津幡は4番の3Pや1on1、8番のオフェンスリバウンドで反撃する。徐々に得点を詰め、34-32と2点差となったところで開志国際はTO。開志国際13番のジャンパーで突き放すが、津幡4番がオフェンスリバウンドからゴール下を決めて36-34で前半終了。

3Q、開志国際はオフェンスリバウンドや相手のターンオーバーから4番の連続3Pなどで加点。10番もオフェンスリバウンドから初得点を取るなどリードを10点に広げたところで津幡はTO。しかし流れは開志国際となり、残り5分の時点でこのQ14-2となり50-36と開志国際リード。津幡は5番の速攻などで対抗するが、55-42で3Q終了。

4Q、津幡はオールコートプレスでスタート。12番の3Pや9番のオフェンスリバウンドからファールをもらい、FTを確実に決めるなど反撃を開始する。開志国際は4番が4つ目のファールでベンチに下がると10番のインサイドで得点を狙う。中盤には連続オフェンスリバウンドから14番の初得点などで流れを渡さない。開志国際は4,5,10番が4ファールとなる苦しい展開となり、津幡が徐々に点差を詰める。残り1分を切り津幡4番の3Pで3点差、さらに5番のバスケットカウントで1点差とするが、FTが決まらない。開志国際は5番が落ち着いてジャンパーを決め残り20秒で70-67。津幡は最後のタイムアウトを取るが、4番の3Pが外れてゲーム終了。粘る津幡に対して、開志国際は苦しみながらも終始落ち着いたゲーム運びで勝利した。

大会名称: **第51回 北信越高等学校新人バスケットボール選手権大会**

開催場所: **富山市総合体育館**

試合区分: **No. B3 女子 三位決定戦** コミッショナー:

期 日: **2020(R02)年1月26日(日)** 主審: **久保 まり**

開始時間: **12:20** 副審: **寺島 慶子**

終了時間: **13:50** 副審: **吉田 智子**

福井商業		○ 67		19 -1st- 19 9 -2nd- 13 21 -3rd- 7 18 -4th- 25 -OT1-		● 64		足羽							
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4		森田 真衣	12		5	2	1	4		久井 咲良	6		1	4	
5		濱田 芽生	7	1	2		2	5		宮下 香菜	6		2	2	2
6		岸本 奈々	7		3	1	5	6		漆原 亜衣	26	3	3	11	2
7		寺島 初琉						7		川端 奈波					1
8		藤井 菜々						8		清水 彩音	6		3		3
9		小木 希	8	2	1		3	9		近森 天音	7		3	1	4
10		梅田 美咲	5	1	1		3	10		大崎 望未					
11		黒濟 粹生	20	1	7	3	2	11		清水 美羽	3		1	1	2
12		道岸 咲佳						12		新美 来美	6		2	2	2
13		平井 杏果						13		林 由夏					
14		杉田 悠莉	8	1	1	3	4	14		秋本 愛佳					
15		藤永 結羽						15		山村 祐美	2		1		2
16		小林 紗夏						16		川岸 さくら					
								17		橋本 ひなの					
								18		山田 愛結	2		1		
合計			67	6	20	9	20	合計			64	3	17	21	18

## 戦 評

(記録者: 丸山 良明)

福井県チームの対戦となった3位決定戦は、両チームマンツーマンでスタートした。福井商業は3P、ドライブイン、バックドアなど多彩な攻撃で得点を重ねていく。足羽は、インサイドプレーやフリースローで得点を重ねていく。1Q後半は両チームなかなかシュートが決まらず、同点で終わる。2Q、福井商業は、11番の1対1を中心に得点チャンスを作っていく。足羽はディフェンスやリバウンドを粘り、着実に点数を重ねていく。前半は足羽の4点リードで終わる。3Q、福井商業は出だしから3Pやバスケットカウントを決めるなど好調に得点していく。一方、足羽は積極的に1対1を仕掛けるが、なかなか攻めきれず、得点につながらない。福井商業がこのゲーム最大10点差をつけて3Qを終える。4Q、足羽はオールコートマンツーマンでプレッシャーをかける。6番のアウトサイドシュートがよく決まり、残り4分で逆転に成功する。福井商業はTOをとり、流れを切る。9番のオフェンスリバウンドからの得点や3Pで再逆転する。その後、一進一退の攻防が続くが、福井商業14番のバスケットボールカウントでリードし、最終スコア67-64で福井商業が勝利した。

大会名称: **第51回 北信越高等学校新人バスケットボール選手権大会**

開催場所: **富山市総合体育館**

試合区分: **No. A4 男子 決勝**

コミッショナー:

期 日: **2020(R02)年1月26日(日)**

主審: **玉木 彰治**

開始時間: **14:00**

副審: **濱住 知明**

終了時間: **15:30**

副審: **山田 隆介**

No.		S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F									
<table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="font-size: 2em;">○</td> <td style="font-size: 3em;">73</td> <td style="font-size: 2em;">●</td> <td style="font-size: 3em;">64</td> </tr> </table>									○	73	●	64					
○	73	●	64														
									21 -1st- 14								
									24 -2nd- 17								
									18 -3rd- 11								
									10 -4th- 22								
									-OT1-								
No.		S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	
2			塚本 智裕	6		3		3	4		坂場 泰地						
3			久木 翔太						9		平良 瑠海						
6			尾崎 虹太郎					5	12		伊藤 朋輝						
7			石田 泰三	16	4	1	2	1	14		古川 晟	6		1	4	2	
8			清水 愛葉	20	4	3	2	2	15		梶原 理玖	9		3	3	2	
9			後藤 知也						18		北村 遥斗	3	1				
10			中内 雅杜	3	1				19		島倉 欧佑	13	3	1	2		
11			長田 和也	18	2	6		1	22		横田 楓					3	
13			宮本 一冴						27		DIARRA OUMAR	29		12	5	4	
14			諸 駿太郎	10	2	2		5	31		神田 航汰	2		1		2	
18			山本 雄心						35		佐野 健太						
33			寺西 大樹						37		大倉 望夢	2		1			
35			竹田 空穂					2	45		谷内 璃空						
36			村浜 怜						81		堀澤 泉輝						
87			嶋田 光希						91		高橋 空						
合計				73	13	15	4	19	合計				64	4	19	14	13

## 戦 評

(記録者: 西島 直希)

1Q序盤、お互いにシュートを決めきれず、得点が伸びない重い展開に。しかし中盤、北陸学院は7番の3Pを皮切りに、連続得点で2桁リードを得る。対する帝京長岡はフリースローで徐々に詰め寄るも、終了間際、北陸学院10番の3Pを許してしまう。21-14と北陸学院リードで1Q終了。

2Q、点差を縮めたい帝京長岡は3Pを果敢に狙うも、19番の1本のみと尽くリングに嫌われリズムを掴むことができない。その間に北陸学院は8番、7番の3Pや11番、14番の活躍などで内外から得点を量産し、45-31で前半終了。

3Q序盤、帝京長岡は27番の高さを活かしたプレイで反撃するも、北陸学院8番、11番に3Pシュートを決め返され、波に乗ることができない。中盤に入るとお互いにミスが目立ち、スコアが停滞したまま試合が進み、63-42。北陸学院リードで最終Qへ。

4Q、帝京長岡は27番がインサイドで気を吐き、19番の連続得点で追撃する。更に残り4分半には、31番の活躍で10点差まで食らいつく。しかしその後、北陸学院は11番が試合を優位に進めて、逆転のチャンスを与えない。終盤、帝京長岡は15番、18番の3Pで最後まで粘るも、勝負あり。73-64で北陸学院が初優勝を飾った。

大会名称: 第51回 北信越高等学校新人バスケットボール選手権大会

開催場所: 富山市総合体育館

試合区分: No. B4 男子 三位決定戦

期 日: 2020(R02)年1月26日(日)

主審: 永山 亮一

開始時間: 14:00

副審: 山本 達也

終了時間: 15:30

副審: 伊藤 純一

開志国際		○ 99		24 -1st- 14 30 -2nd- 25 26 -3rd- 18 19 -4th- 24 -OT1-				● 81		北陸					
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4		石原 史隆	10		5		3	4		土家 拓大					
5		ジョーンズ 大翔	14	4	1		4	5		小川 翔矢	23	3	5	4	
6		西村 洸星	8		4		1	6		米本 信也	17	2	3	5	
7		小野 功稀	6		3		3	7		松山 魁武					
8		小畠 一真	7		3	1	1	8		加藤 大成	4		1	2	2
9		星 一輝	2		1			9		岡川 久輝					3
10		内田 貴斗	13	1	5		2	10		TARAORE FOUSSENI	10		5		1
11		野口 竜真						11		金子 聡太					
12		尾上 祐樹	2		1			12		布村 壮馬	17		6	5	2
13		白澤 朗	24	6	3		4	13		石田 健太郎					
14		UDELE JOSHUA CHUKWUEKWU	13		6	1	2	14		下地 秀一郎	10	1	3	1	1
15		兼重 寧緒						15		照井 蓮					
16		乙馬 拓夢						16		仙波 孝紘					
17		佐々木 怜朗						17		森 龍志					
18		小林 彩人						18		山田 怜生					
合計			99	11	32	2	20	合計			81	6	23	17	9

## 戦 評

(記録者: 中村 和貴)

両チームマンツーマンディフェンスで、1Qが始まる。先制したのは、開志国際。13番の3Pや4番のゴール下のプレーで流れをつかみ、得点を重ねる。対する北陸も5番の3Pやドライブイン、12番もゴール下を攻め得点を重ねるが、オフェンスリバウンドを生かせず得点が伸びない。開志国際は精度の高いプレーを維持し、24-14で1Qを終える。2Qでは、北陸14番、8番が3Pを連続で沈め、一時4点差まで詰め寄る。ゴール下のプレーも激しさが増し、開志国際14番と北陸10番との留学生同士の勝負も目立った。しかし、開志国際の素早く激しいチェックで北陸はシュートを決められない。一方開志国際は、8番が果敢にゴール下を攻め、北陸10番にも当たり負けせず、フリースローも確実に決める。アシストも増え、着々と得点をあげ、前半を54-39で終えた。

後半も両チームマンツーマンディフェンスを継続する。3Qでは、開志国際5番のプレーが際立ち、3Pやレイアップ、強いパスで味方の速攻をアシストし、点差を広げた。一方北陸も、ゴール下やドライブで果敢に攻めゴールを決めるも、ポジション争いに手こずり攻めきれず、80-57で3Qを終える。最終Qでは、開志国際の3Pが入らなくなり、14番も負傷交代。そこを北陸は攻め立て、10番の高さを生かしたポストプレー、内から外へパスをさばき、味方がミドルシュートを決めるなど徐々にをつめる。対する開志国際も持ち前のスピードを生かした速攻など高さの不利をなくす。北陸は前から当たり厳しいディフェンスを試みるが点差を縮められず、97-81で開志国際が勝利を収めた。